

令和三年度 入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意 事 項

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。
- 二 解答用紙は三枚あります。
- 三 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の枚数の過不足や汚れ等気がついた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 四 試験開始後、すべての解答用紙に受験番号、志望学部及び氏名を記入してください。
受験番号の記入欄は各解答用紙に二箇所あります。
- 五 解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
- 六 問題冊子の余白は適宜使用してください。
- 七 各問題の配点は二百点満点としたときのものです。
- 八 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

—
(配点80)
次は、作家である多和田葉子氏のエッセーの一部である。これを読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合で、本文に変更を加えたところがある）。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の
観点から、
問題文は掲載
していません。

(多和田葉子『エクソフォニー——母語の外へ出る旅』(岩波書店、二〇〇三年)より)

(注)

- 1 繚乱——花が咲き乱れるさまなどを表す語。日本語でも「百花繚乱」のような形で用いられる。
- 2 この女性作家会議——二〇〇一年に北京で開かれた日中女性作家会議のこと。この会議には、筆者である多和田葉子氏も出席し、このエッセーの冒頭でそのことに触れている。
- 3 高島氏——中国語学・中国文学研究者である、高島俊男氏のこと。
- 4 ウォロフ語——セネガル共和国で使われている言語の一つ。かつて、フランスの植民地であったことから、フランス語も使われているなど、セネガル共和国では複数の言語が使われている。
- 5 夢の島——廃棄物によって埋め立てられた東京の埋め立て地。

問一 傍線部①～⑧について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 空欄Aに入るのに最も適当な言葉を、次のa～eの中から一つ選び、その記号を記しなさい。

- a 真実 b 恩恵 c 神話 d 奇跡 e 悲劇

問三 二重傍線部「二重に外来語だ」とあるが、筆者が、「漢字」を「二重に外来語だ」と考える理由が、空欄Bに述べられている。空欄Bに入る記述を、問題文から推測して三十字程度で答えなさい。

問四 波線部A「西洋語の勉強がしやすくなった」とあるが、なぜ、「漢字が日本に入ってきた」ために、「西洋語の勉強がしやすくなった」と、筆者は述べているか、百四十文字程度で説明しなさい。

問五 波線部イ「日本語という夢の島の住人になって、ねずみのようにせつせと仕事をしよう」と覚悟を決めた」とあるが、筆者はどのような「覚悟を決めた」のか、九十字以内で説明しなさい。

問六 波線部ウ「美」という単語は構えが大きいだけに、身体性が貧弱だ」とあるが、これは、どのようなことを指しているか、七十字以内で説明しなさい。

二 一次の文章は、平安時代末期に成立した説話集の一節（本文を一部省略している）である。これを読んで、後の問いに答えなさい。（配点70）

今は昔、る中人の徳ありけるが一人女、いみじくかなしくしける父母亡くなりて、頼りなく、^(注1)ずちなくなりて、多かりし使ひ人もみな行き散りて、心ほそくわびしくて過ぐる程に、廿にも余りて、やうやう盛り過ぎ、懸想する人もあまたあれど、「かか^①るあやしの物は、ただうち見て捨てんをば、いかがせん」など思ひて過ぐるままに、親の作りまゐらせたる観音のおはします御前に参りて、「助けさせ給へ」と申しつつ、そればかりをたのむことにはしける。

^(注2)津の国の輪田といふ所に住みけるに、ただ一人、食ひ物もなくて、あさましくてゐたるに、泣く泣く観音の御前に参りて、身の事を申して寝たる夢に、「まことにいとほしくおぼしめす。頼りになるべき物は召しに遣はしつ」と見て、頼もしく思ひてゐたる程に、人来て宿借る。「とく居よ」とて貸しつ。

見れば、三十余ばかりなる^(注4)五位の、いみじく徳ありげなり。人多く具して宿りぬ。我は奥に入りて隠れ居たるに、物食ひなどして、家主がりもおこせおとなふに、人ありげもなかりければ、「頼りなげなる人にこそ」といとはしく思ひて、やをらのぞきければ、みめよき女房の、ただ一人居たりければ、「語らひてん」と思ひて、^(注5)「さのみこそは候へ、少し近く寄らせ給へ。何事も頼みまゐらせん」など言ひ寄りて、その夜あひにけり。

さて、まことしういとほしくおぼえにければ、「妻にして、具して居たる所へ来」など言ひて、^(注6)明けぬれば、物どもしたためて、その日は居て、この女房に物言ひ語らひ、^(注7)あるべきことも言ひ教へなどして、晝に奥の郡に沙汰すべきことありて過ぎぬ。「四五日はあらんず」と言ひ置きて、「その程、心変らで待ち給へ」など、^Aねんごろに語らひて出づれば、女、「言ふことまことならば、^②さてこそはあらめ。夢にも見えしかば」、それを頼もしく思ひて、待つ程もはかなし。

さて、「来たらむに、馬の草などだにからんこそ心憂けれ。あまりかく^(注8)不合なるこそ、心にくくは思ふまじけれど、おのづから^(注9)つゆのこともなきまこそあらめ、供の人などの思はんことよ」と思へど、^C叶ふまじければ、^(注10)棧敷のあるよりさし出でて、心ゆかしと見れば、としごろ使ひし女ばらの、今は侮りて寄りつかぬが、^(注10)大路井を汲みて立てるをや。「おのれ、ありけるは。など見えぬぞ。来かし」と言はれて、「まことにおろかにも思ひまゐらせねど、^(注11)え参らず。^(注12)急ぎ候ひて」と言ひながら来たり。「頼りなくてかくてゐたるに、^(注12)あはぬことなれど、今二三日の程、馬の草の少し欲しき。くれてんや」と言へば、

「やすく候ふ事。まるらせてん。頼り取らせ給ひて候ふか。さらば、それならぬこともしてまるらせてん。いかでか」など言ひて、草、期もなく持て来、(注13)

食ひ物などさまざま持て来て置きたり。嬉しく思ひて、「やがて人来たらんに、おのれもめて見えよ。ただ一人あるに」など言へば、「やすく候ふ事。宮仕ひし候ひなん」とて、あはれにし歩く程に、男帰り来たり。人もなく、ずちなげなりにしに、物もあり、女もゐれば、従者どもも「よし」と見けり。

さて、三日ばかりありて、出で立ちて具して行く。この女、さまざま物ども多く持て来れば、「いかにかくあまりはするぞ。かたはらいたく」と言はれて、(注14)「月ごろ参らぬことだに候ふ。いかでか」とて、暁まで出だし立つ。男も供の物どもも、「むげに叶はぬ人にはあらざりけり」と見けり。「この女、かく

あはれにあたるに、むげにすることのなき、いとほし」と思ひて、色けうらに、よき袴の新しき、残して持たりけるを、「形見にもせよ。又越前へは、もと(注15)もうちつけには行くまじけれど、かくてもすべき方なければ、心も知らぬ人に具して往ぬる」など言ひて取らするを、取らず。「旅にては見苦しくおはしまさむず。たてまつりてこそおはしまさめ。あるまじきこと」とて、さらに取らぬを、「口惜しく、形見にも見よかし。同じ心にはなき」と言はれて取りつ。

よにあはれに言ひ契りて、出づとて、「まこと、仏の御前に参りて、暇申さん」とて、つとめて参りたれば、昨夜女に取らせし袴を御前に置かせ給ひて、少し御膝の上に引きかけてこそ見えさせ給ひたりけれ。女に變じて日ごろ歩かせ給ひ、物ども賜びなどせさせ給ひける。よにあさましく悲しく、臥しまろ(注16)び泣きても、あまりぞありける。遠く離れまるらせて往なん悲しさを思へども、するかたなし。あふなくおぼゆる方も、頼もしくなりぬれど、遠くなりま(注17)るらするぞ悲しかりける。

されば、親の作りまゐらせたりける験に、(注18)かかる御徳を見て、めでたく越前へ行きて、楽しく、子など産み続けて、もとの家をば堂になして、観音にえもいはず仕うまつり、又作りまゐらせなどして、いよいよ栄え、めでたくありけり。

(注)

- 1 ずちなくなりて——処世の方法がなくなつて。
- 2 津の国の輪田——摂津の国輪田の泊。古代以来の畿内の要港。現神戸港。
- 3 とく居よ——どうぞ早くお入り下さい。
- 4 五位——地方豪族としては最有力の官位を持っていることを表す。
- 5 さのみこそは候へ——奥まつた所にただ一人で閉じ籠つていないで。
- 6 居たる所——私の所領(越前の国)。
- 7 あるべきことども言ひ教へなどして、晝に奥の郡に沙汰すべきことありて過ぎぬ。
——今後の必要な処置など言い教へなどして、明け方に京から見て更に遠方の郡に始末しなければならぬ用事があつて出かけて行つた。
- 8 不合——豊かでないこと。貧乏。
- 9 つゆのことみなき主こそあらめ——少しの事でも欠点のない主人こそがよいだろう。
- 10 大路井——大通りに設けられた共同井戸。
- 11 おろかに——疎略に。
- 12 あはぬことなれど——今の生活にはふさわしくないことだけでも。
- 13 期もなく——時間をおかずにすぐに。
- 14 晝まで出だし立つ——夜明け方までかかつて様々な旅立ちの準備をして出発させる。
- 15 越前——今の福井県。
- 16 うちつけ——突然なこと。
- 17 あふなくおぼゆる——深く思慮することもなく軽率な振る舞いに思われる。

問一 傍線部 a～e の助動詞について、それぞれの文法的意味と活用形を答えなさい。

問二 傍線部 A「語らひて」、B「思ふ」、C「思へど」、D「あはれにし歩く」、E「取らする」について、それぞれの主語を次のア～オの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。なお、同じ記号を何度選んでもよい。

ア む中人の徳ありける

イ 一人女

ウ 三十余ばかりなる五位の、いみじく徳ありげなり

エ 供の人

オ としごろ使ひし女ばら

問三 傍線部①「あやし」、③「え参らず」、④「かたはらいたく」、⑤「月ごろ参らぬことだに候ふ」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問四 傍線部②「夢にも見えしかば」とあるが、女はこの時、夢でどのようなことを告げられたとと思っているのか、説明しなさい。

問五 傍線部⑥「むげに叶はぬ人にはあらざりけり」とあるが、どうしてこのように思ったのか。理由として最も適切な箇所を本文から三十字程度で抜き出しなさい。

問六 傍線部⑦「よにあさましく悲しく、臥しまろび泣きても、あまりぞありける」とあるが、女は何に気がついてこのようになってきているのか、説明しなさい。

問七 傍線部⑧「かかる御徳」の内容を百字以内で説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合で、返り点、送り仮名を省いたところがある）。（配点50）

秦牛缺徑於山中而遇盜奪之車馬解其橐笥拖其衣被

盜還反顧之無懼色憂志驩然有以自得也盜遂問之曰「吾奪子財貨

劫子以刀而志不動何也」秦牛缺曰「車馬所以載身也衣被所以

揜形也聖人不以所養害其養」盜相視而笑曰「夫不以欲傷生

不以利累形者世之聖人也以此而見王者必且以我為事也」還

反殺之此能以知知矣而未能以知不知也能勇於敢而未於能勇於

不敢也凡有道者必卒而不乏遭難而能免故天下貴之今知所以自

行也而未知所以為人行也其所論未之究者也人能由昭昭於冥冥

則^チ幾^{チカシ}於^ニ道^ニ矣[。]詩^ニ曰^{フハ}「人亦^リ有^レ言^フ、無^{シト}哲^{トシテ}不^{ルハ}愚^{ナラ}、此^レ之^レ謂^{イヒ}也[。]

〔淮南子〕人間訓より

(注)

- 1 盜——盜賊。
- 2 橐筭——橐は袋、筭は箱。車馬に積んでいた荷物のこと。
- 3 衣被——衣服。
- 4 還反——引き返す。
- 5 懼色憂志——懼^{おそ}れたり悲しんだりする様子。
- 6 驩然——喜ぶさま。
- 7 自得——自分の状況に満足する。
- 8 子——あなた。
- 9 志不動——動揺せずに落ち着いている。
- 10 形——身体。
- 11 所養——自己の身体を養う物としての衣服や財貨。
- 12 其養——養われる対象としての身体。
- 13 生——生命。
- 14 知——智者としてのふるまい。
- 15 敢——智者としてのふるまいを押し通すこと。
- 16 道——人としてのあるべき生き方。
- 17 応卒而不乏——咄^{とつ}嗟^さのことに対応して窮^{とつき}することがない。
- 18 由昭昭於冥冥——自己の明智を包み隠して行動する。

19 詩曰「人亦有言、無哲不愚」——『詩經』大雅・抑篇の二句。「人が言う。哲人であつて愚人のふるまいができないものはない」。

問一 波線部A・B・Cを訓読し、送り仮名があればそれも含めて、ひらがなで書きなさい。解答は現代仮名遣いでよい。

問二 傍線部①「聖人不以所養害其養」は、「聖人は養ふ所を以て其の養はるるものを害なはず」と読む。これに従つて、返り点を施しなさい。

問三 傍線部②「夫不以欲傷生、不利累形者、世之聖人也」を、現代日本語に訳しなさい。

問四 傍線部③「以此而見王者、必且以我為事也」について、次の問いに答えなさい。

(一) 「此」とは何を指すか、次のア～エから一つを選び、記号で答えなさい。

ア 牛缺から奪つた財貨。

イ 牛缺から何も奪わなかつたこと。

ウ 牛缺が聖人であること。

エ 牛缺が愚か者であること。

(二) 「必且以我為事也」の訳文として最もふさわしいものを、次のア～エから一つを選び、記号で答えなさい。

ア きつと国君は、我々に褒美をくれるだろう。

イ きつと国君は、我々を取り立ててくれるだろう。

ウ きつと国君は、我々に事情の確認をするだろう。

エ きつと国君は、我々を逮捕しにくるだろう。

問五 傍線部④「今知所以自行也、而未知所以為人行也」は、「いま牛缺は自身の信念に従って行動するすべは知っていたが、人がそれをどう思うかを考えて行動するすべを知らなかった」という意味である。これによれば、牛缺は、盗賊に襲われた際、どのように行動すべきだったと考えられるか。本文全体の内容をふまえて、具体的に述べなさい。